訪問型家事育児支援イメージ調査報告

2020 年 3 月 6 日

NPO 法人ファミリーステーション Rin

※本調査内容について転載を希望する場合は、当法人まで予めお問い合わせください。
また、許可を得て転載する場合にも内容の改変は行わないでください。

連絡先　NPO 法人ファミリーステーション Rin
〒470-0104　愛知県日進市岩藤町陸見 63 番地
TEL & FAX 0561-74-1080　/ E-mail rin@npo-rin.org

1.本調査の目的

「産後サポート」「家事育児支援」について利用に抵抗があったり、ネガティブなイメージを持つ人が多いのではないかという仮説に基づき、利用者拡大につなげるためのヒントとして、本事業に対して世間一般の人が持つイメージを調査する。

2.調査手順と方法

1.アンケート作成にあたり、家事育児支援の利用対象者である未就園児の母親に対してヒアリングを行う。

2.ヒアリングを元にアンケートを作成し、WEB のアンケートシステムを利用して、回答を募集する

3.実施期間

1.ヒアリング調査　2019 年 9 月

2.WEB アンケート調査　2019 年 12 月 2 日～1 月 17 日まで

4.調査結果について

WEB アンケートを通して、131 名の回答を得た。

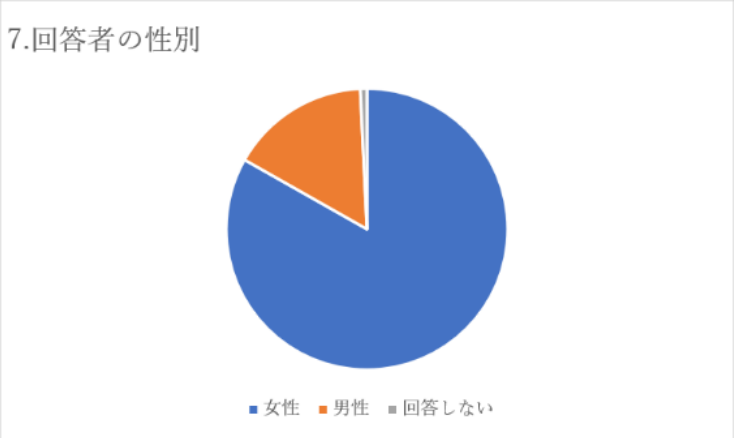
(1)回答者の属性について

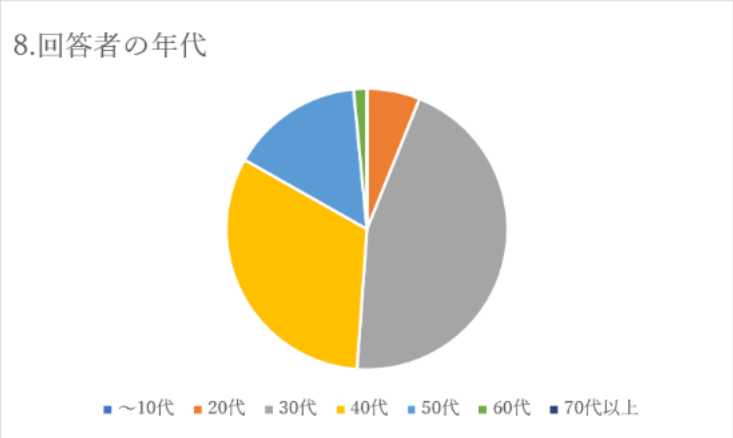
性別…女性 109 名、男性 21 名、未回答 1 名(グラフ 7)

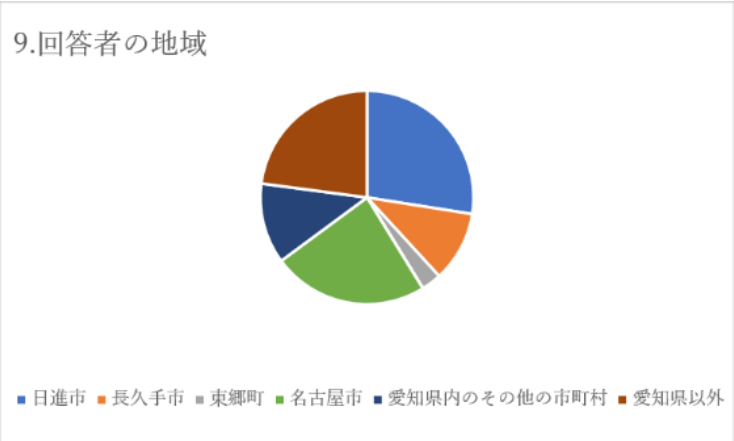
年代…20 代～60 代の回答をいただき、30 代の回答が最も多い。(グラフ 8)

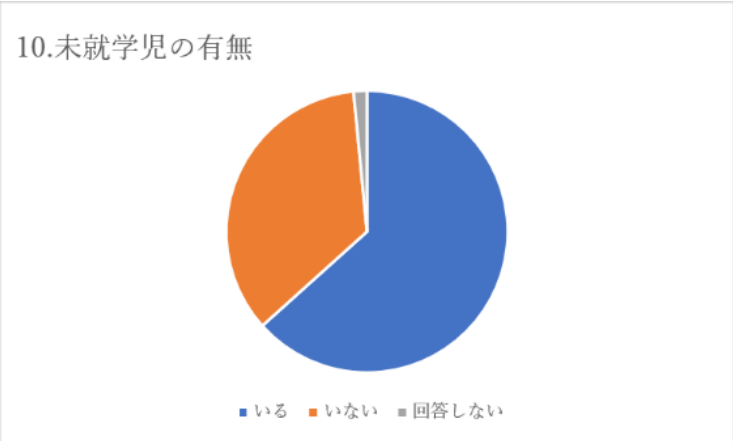
地域性…日進市が最も多く、次いで名古屋市、愛知県以外の地域となった。(グラフ 9)

未就学児の有無…回答者の約 65%は未就学児のいる家庭(グラフ 10)



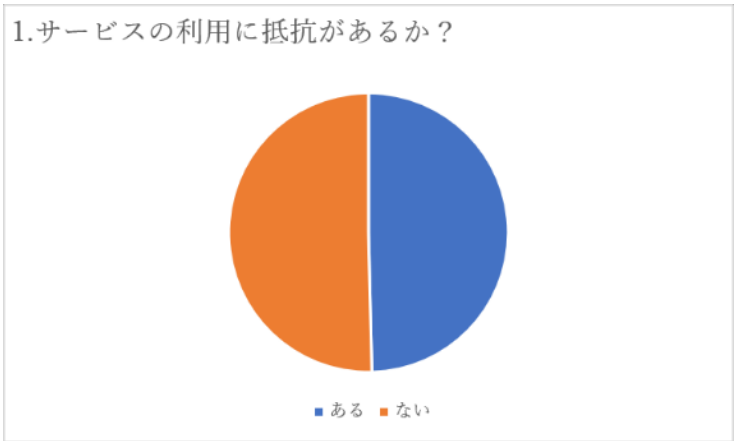


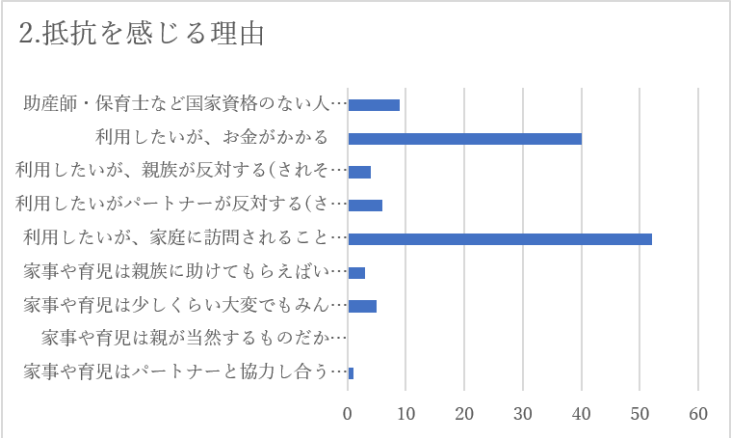




(2)サービス利用の抵抗感について

「1.産前・産後に親族以外の人が家庭を訪問して家事や育児をサポートすることに抵抗がありますか？」という問いに対しては、抵抗感のある人・ない人がほぼ半分ずつとなった(グラフ 1)





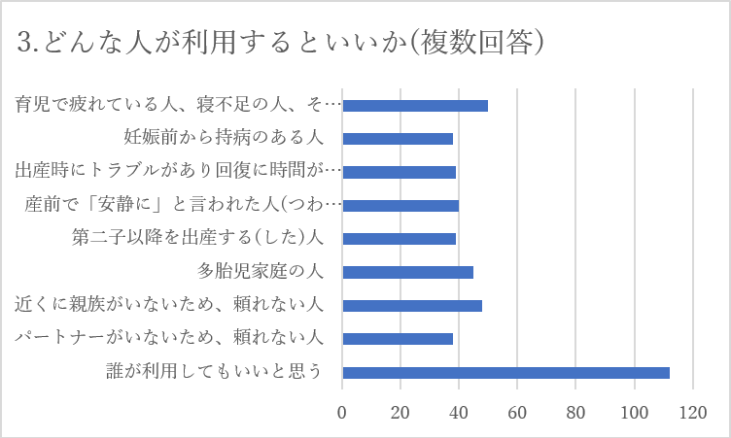
抵抗感ありと答えた人に**2.あてはまる理由**を複数回答で答えてもらった。「利用したいが家庭に訪問されることに抵抗がある」77.6%と「利用したいがお金がかかる」59.7%の２つが多く占める結果となった。次いで「助産師・保育士などの国家資格のない人には安心して頼めない」13.4%となった。

4 位以降は、「利用したいがパートナーが反対する(されそうな)ので抵抗がある」が 9%、「家事や育児は少しくらい大変でもみんなやっているから助けは必要ない」7.5%、「利用したいが、親族が反対する(されそうな)ので抵抗がある」6%、「家事や育児は親族に助けてもらえばいいから、外部の助けは必要ない」4.5%、「家事や育児はパートナーと協力し合うものだから、外部の助けは必要ない」1.5%となった。「家事や育児は親が当然するものだから、外部の助けは必要ない」と回答した人はいなかった。

その他の回答の中には、「具体的にどんなことを頼めるのか、見通しが立たず不安。頼みすぎて申し訳ない気持ちになるのでは」、「過敏な時期にどんな人かとか考えて気を使ってしまいそう」という意見があった。

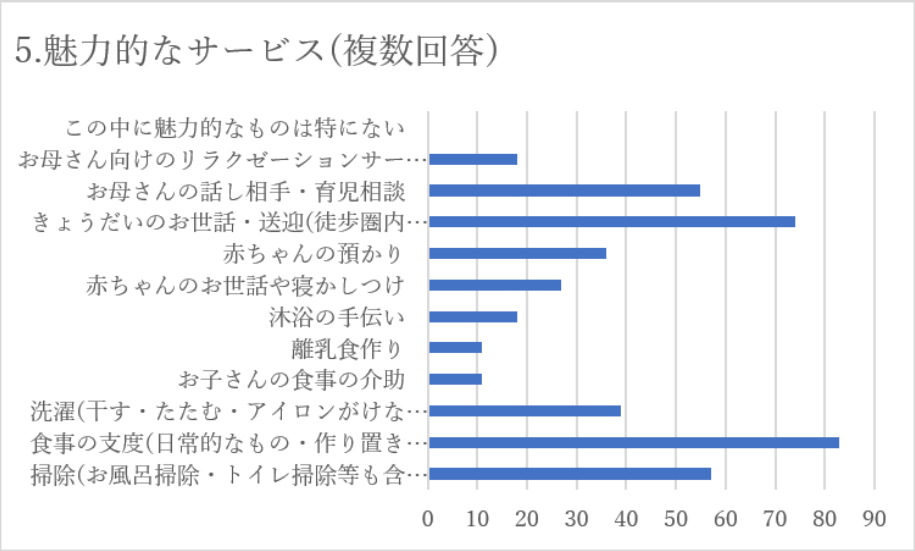
(4)対象者とサービス内容

「**3.『産前産後の家庭訪問型家事育児支援』はどのような人を対象としているとお考えかお答えください。(複数回答可)**」という質問に対しては、回答者の 132 人のうち 112 の人が「誰が利用してもいいと思う」と回答した。



次いで、「育児で疲れている人、寝不足の人、その他体調不良の人」38.2%、「近くに親族がいないため、頼れない人」36.6%、「多胎児家庭の人」34.4%、産前で『安静に』と言われた人(つわりがひどい、早産傾向である等)」30.5%、「第二子以降を出産する(した)人」・「出産時にトラブルがあり回復に時間がかかる人(帝王切開で傷が痛む・出血過多等)」共に 29.8%、「パートナーがいないため、頼れない人」、「妊娠前から持病のある人」共に 29%となった。

「5.「訪問型家事育児支援」のサービス内容で産前産後にサポートしてもらえたとしたら、あなたにとって魅力的だと思うものをお答えください。(3つまで)」という質問に対しては、「食事の支度(日常的なもの・作り置きも含む)」63.4%で最も多かった。



次いで「きょうだいのお世話・送迎(徒歩圏内のもの)・遊び相手」56.5%、「掃除(お風呂掃除・トイレ掃除等も含む。日常的なもの)」43.5%、「洗濯(干す・たたむ・アイロンがけなど。日常的なもの)」29.8%、「お母さんの話し相手・育児相談」42%、「赤ちゃんの預かり」27.5%、「赤ちゃんのお世話や寝かしつけ」20.6%、「沐浴の手伝い」「お母さん向けのリラクゼーションサービス(エステやマッサージ)等のオプション」13.7%、「お子さんの食事の介助」「離乳食作り」8.4%となった。

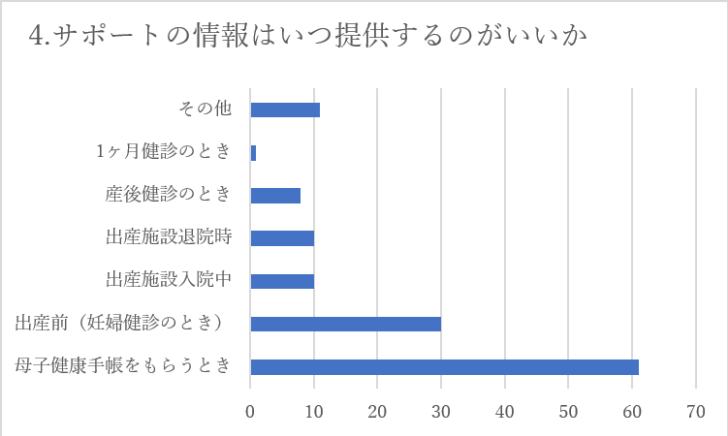
産前産後のサポートにおいては、赤ちゃんの育児よりも、日常の家事や赤ちゃん以外の子どもの世話にニーズがあるということが分かった。

また選択肢の中には「この中に魅力的なものはない」という選択肢もあったが、この項目への回答は0であった。

その他の回答の中には「友だち感覚で話し相手や自宅での食事に付き合ってくれる」というものがあった。

(5)情報提供の機会

「4.『訪問型家事育児支援』のサービスについて、いつ、どのように情報提供すると、利用しやすいと思うかお答えください。」という設問において情報提供の機会・タイミングについて質問したところ、最も多い回答は「母子健康手帳をもらうとき」46.6%であった。



次いで「出産前（妊婦健診のとき)」22.9%、「出産施設入院中」「出産施設退院時」7.6%、「産後健診のとき」6.1%、「1ヶ月健診のとき」0.8%となった。

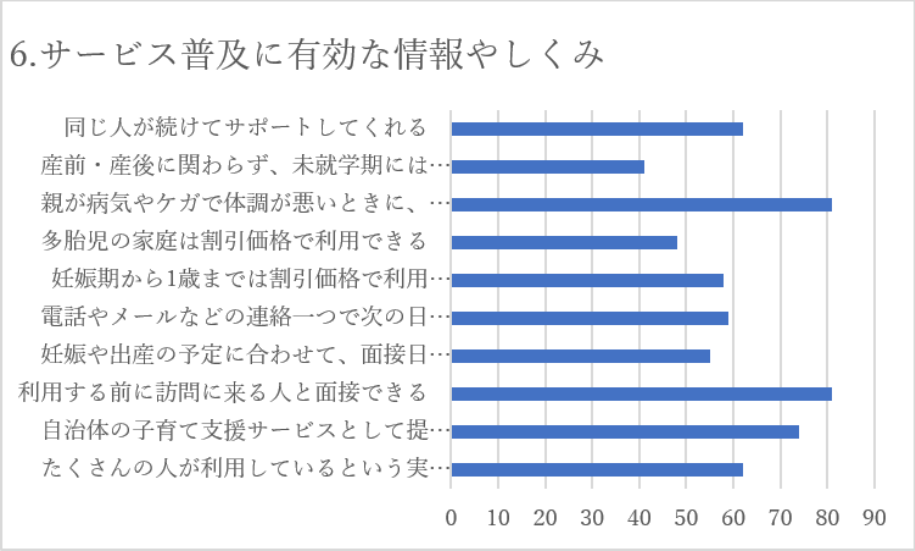
この質問については「その他」と回答した人が11名と他の質問より多い傾向にあり、多様な意見があることがわかった。

大きく分けると複数回アプローチ(「全てのタイミングで」「接触できるすべての場合に」「都度」「母子手帳交付時と出産施設退院後(または出産後)」)、妊娠前から(「結婚した時。妊娠可能年齢になった時。」「大学の授業や職場のライフキャリア支援の一環で育休に入る前に職場から案内」「パートナーと共に説明を聞く」)、選択肢にない産後のタイミング(「こんにちは赤ちゃん訪問のとき」「困ったとき」)の3つがあった。

その他の意見を含めても、出産前にアプローチすべきであるという意見が半数以上を占める結果となった。

(6)利用の促進について

「6.どのようなしくみや情報があったら、あなた自身が「訪問型家事育児支援」を利用したいと思う、または、自分の家族や親しい友人に勧めてみようと思うかお答えください。(複数回答可)」という問いで利用の促進につながる仕組みや情報提供について質問した。



回答は「利用する前に訪問に来る人と面接できる」と「親が病気やケガで体調が悪いときに、すぐに利用できる」がともに 61.8%と最も多かった。次いで、「自治体の子育て支援サービスとして提供されている」56.5%、「同じ人が続けてサポートしてくれる」と「たくさんの人が利用しているという実績(「誰でも使える」「みんなが使っている」と感じることができたとき)」が共に 47.3%、「電話やメールなどの連絡一つで次の日からすぐ利用できる」45%、「妊娠期から 1 歳までは割引価格で利用できる」44.3%「妊娠や出産の予定に合わせて、面接日程から支援の内容までプランニングしてもらえる」と「多胎児の家庭は割引価格で利用できる」が共に 36.6%、「産前・産後に関わらず、未就学期には利用できる」31.3%となった。

その他の回答した人の意見には、サービス提供者の安心感や信頼に関するもの(「自分との相性」「サービス提供者の講習がしっかりとされている」「サポートで来る人と顔見知り、またはサポートする人の評価や口コミ投稿が見られる。」)や、行政や企業のバックアップ(「企業等と連携して、費用負担を軽く」「自治体が 2 時間×1 週間の無料チケットをくれたらもっと利用しやすくなると思うし、どんな人でも利用していいんだと思える。」)、サービスのパッケージ化(「家庭ごとにニーズは異なると思いますが、サービスを何種類かパッケージにする。」)、社会の意識に関する意見(「産後は心身ともにサポートが必要な状態であることをみんなが理解している」)などがあった。